



学年別懇談会(横浜)

明会では、中村雅子メディア情報学部長が、「本学部では、社会のさまざまな事象を調査、研究しながら、問題解決力を身につけます」と説明。続いて、メディア情報学部が主催する東京都市大学市民講座など、学部ならではの取り組みが紹介されました。さらに、教務委員長の横井利彰教授が、研究室配属の際に考慮しておくべきことなどについて解説し、「普段から教員に積極的に関わりながら、学生たちが主体的に将来の目標を定めてほしい」と話しました。また、日経HRによる大学総合ランキングで全国第19位、就職に熱心に取り組んでいる大学第6位に選出されるなど、その高い就職力が評価されていること、グループ企業などでのインターンシップに積極的に取り組んでいることなども紹介されました。

3年次以上の保護者が集まる環境情報学部説明会にも、開始30分以上前から多くの保護者が集まり、会場はまたたく間にいっぱい。吉崎真司学部長は、就職に強い学生には、情報収集力やアピール力があることなどの特徴を紹介。最後にキャリア委員の田中章教授が登壇し、「研究活動に一所懸命な学生は就職にも困らない」と述べ、保護者の皆さんは熱心に聞き入っていました。

等々力
キャンパス

都市生活学部、人間科学部ともに きめ細かい指導で就職をサポート

等々力キャンパスでは、午後1時から都市生活学部と人間科学部の説明会を開始。都市生活学部では、坊垣和明学部長が、大学院都市生活学専攻を開設して、学修・研究体制のさらなる充実を図り、併せて学生たちの選択の幅が広がったことや、少人数クラス制で担任を配置し、学生生活や学修、就職・進学支援の面でも細やかに対応していることなどを説明しました。また、2013年度(2014年3月卒業)は、都市生活学部で98.2%、人間科学部が98.9%ときわめて高い就職内定率を示したこと、都市生活学部の主な就職先が不動産業、建築、住宅関連企業であったことなどが紹



都市生活学部の学部説明会



教員紹介の様子

介され、早期からのキャリアサポート、国内だけでなく海外でも実施しているインターンシップ、3年次からの本格的な就職対策などが功を奏しているとの話がありました。アジアやヨーロッパなどの海外研修の実施や、英語研修などへの参加を促すなど国際的にも活躍できる人材の育成を目指している都市生活学部。学部説明会の後には、希望者に個人面談が行われ、保護者から寄せられるさまざまな質問に答じていました。その中で、参加した保護者相互の連携が強まる取り組みが欲しいなどの要望も出されました。

なお、今年度、全国の連絡会へのご参加は全1,663世帯。来年も多くの方々のご参加をお願いいたします。

水戸会場

信頼と説明責任と

世田谷キャンパス 学生支援センター 係長 島田 則明

本年も大学と保護者との連絡会地方会場へと行ってまいりました。年々、参加される保護者の数が増えていることに本学



への関心の高さを窺い知ることができます。

私が今回担当させていただいた会場は、茨城県水戸市にあります三の丸ホテルで、9月7日(日)13時30分より限られた時間ではありましたが、開催させていただきました。休日に関わらず41世帯・62名と多くの方に参加いただきました。

今回、我々担当者は、パワーポイントと冊子を併用しながら、大学の近況報告、学修の流れ、学生生活、就職・進学について説明をさせていただきました。また、後援会評議員の方より後援会の概要・活動内容を説明いただき、校友会茨城支部の方には校友会の活動等について説明いただきました。特に事前に寄せられた質問でも多かった就職について、担当者より手厚く説明させていただいた結果、全体に対する質問は特段ありませんでした。会終了後に個別相談を希望された方も少なく、参加いただいた保護者の皆様には往々に満足して帰途についていただけたと自負しております。

今や教育機関である大学も、ステークホルダーである保護者の方に安心して学生を預けていただくために、大学の現状や支援内容を説明しなければならない責任がございます。今後も本連絡会を通して、大学の近況などを説明させていただき、保護者の皆様や卒業生の方々から引き続き本学へのご支援、ご理解を賜る一助になればと考えております。